

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第71期（2021年4月～2021年9月）[9名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学研究科
De La Paz Manuel Eduardo Legaspi	マーク	フィリピン	理学	広島大学統合生命科学研究科
Ceesay Fatou B	ファトウ	ガンビア	医歯学	広島大学医系科学研究科
Burawat Mathanee	リン	タイ	電気システム制御	広島大学先進理工系科学研究科
Gonzalez Javier Elias	エリアス	メキシコ	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Hortua Diaz Omar Camilo	オマル	コロンビア	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Piboonlapudom Supasuta	ネネ	タイ	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Babu Liyogar	リヨ	インド	情報科学	広島大学先進理工系科学研究科
Murugan Ramyaa	ラムヤ	インド	情報科学	広島大学先進理工系科学研究科
Gurunathan Vijayalakshmi	ビジ	インド	情報科学	広島大学先進理工系科学研究科

第72期（2021年10月～2022年3月）[20名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学研究科
Nath Ashit Kumar	アシット	インド	工学	広島大学先進理工系科学研究科
Nag Jadupati	ナグ	インド	理学	広島大学先進理工系科学研究科
Santos Oliver Sungcuan	サントス	フィリピン	工学	広島大学先進理工系科学研究科
Akuffo Golda Ataa	ゴルダ	ガーナ	医歯学	広島大学医系科学研究科
Ntokome Keletso	ケレツォ	ボツワナ	農学	広島大学統合生命科学研究科
Dimpy	ディンピー	インド	教育哲学・教育倫理学	広島大学人間社会科学研究科
Ibrahim Sharifa	シャリファ	ガーナ	幼児教育学	広島大学人間社会科学研究科
Vosevua Colleen	コリーン	ケニア	幼児教育学	広島大学人間社会科学研究科
Jimenez Valencia Tannia Gabriela	タニヤ	メキシコ	幼児教育・保育	広島大学人間社会科学研究科

Chue Myat Chal Chit	チュウ	ミャンマー	情報学	広島大学人間社会科学研究所
Olowookere Oluwafemi Emmanuel	オロウオケレ	ナイジェリア	理科教育	広島大学人間社会科学研究所
Nweke Gloria Chinazor	チナゾー	ナイジェリア	体育科教育	広島大学国際協力研究所
Renganathan Gunarajulu	グナ	インド	電気システム制御	広島大学先進理工系科学研究科
Calderon Enrique	エンリケ	メキシコ	電気システム制御	広島大学先進理工系科学研究科
Ravichandran Paveethran	パベ	インド	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Murugan Chairmanraja	チェアマン	インド	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Nathella Adhitya Baskar	アディ	インド	機械工学	広島大学先進理工系科学研究科
Rachmawati Ika Yuni	イカユニ	インドネシア	化学工学	広島大学先進理工系科学研究科
Mettatam Umpika	ウンピカ	タイ	建築学	広島大学先進理工系科学研究科
Mujeeb Rahman Atefi	アテフィ	アフガニスタン	建築学	広島大学先進理工系科学研究科

講師一覧

第71期（2021年4月～2021年9月）

専任 深見兼孝 フェレイロ・ダマソ 松山由布子 迫田久美子（特別クラス）

非常勤 佐藤道雄 杉本雅恵 中川正弘 山中康子 渡辺久美

第72期（2021年10月～2022年3月）

専任 陳斐寧 深見兼孝 フェレイロ・ダマソ 松山由布子

非常勤 伊藤賀与子 佐藤道雄 杉本雅恵 中川正弘 山中康子 渡辺久美

コース概要

第71期（2021年4月～2021年9月）

オリエンテーション 4月6日（火）11:00-12:00 K211

開講式 4月7日（水）13:00-14:00 K308

授業期間 4月8日（木）～9月1日（水）

休暇（夏休み） 8月12日（木）～8月31日（火）

特別講義 9月2日（月）～9月7日（火）

成果発表会／修了式 9月8日（水）10:30-12:00 / 13:30-14:30 K308

試験	5月6日(木)、6月18日(金)、9月1日(水)
見学	4月30日(金) 広島市内・ホストファミリーとの対面式 (広島市留学生会館)

* 4名が新型コロナウイルスによる入国制限のため4月8日までに来日できなかった。この4名は、当初はオンラインで授業に参加させていたが、負担が大きいために明らかになったため、4月13日(月)から残りの学生と切り離し、オンラインを利用した学習に切り替えた。一部授業の録画と翻訳などを使って自主学習し、課題をこなすものとした。また、かつ時差を考慮して2名ずつ9:00-10:30と16:20-17:50にフィードバックセッションを火曜日と木曜日を設けてリズムを作った。この4名のうち2名は9月8日まで来日できず、最後までこの方式を続けた。あとの2名はこの方法では十分でなく、対面授業に参加するのが難しいと判断し、来日してから(7月14日と7月20日から。前日にオリエンテーション)夏休みに入るまで、毎日2.5コマの特別クラスを設けて対面で授業を行った。4名の自主学習において、課題とフィードバックセッションは専任が手分けして担当した。また、2名への特別クラスは専任と担当可能な非常勤講師が担当した。このように、71期は1クラスで始めたが、途中から2クラス、最後には3クラスで運用したと言ってもよく、教員の負担が大きかった。

なお、新型コロナウイルスの流行により、4月8日までに来日できた学生に対しても対面授業を行った期間とオンライン授業を行った期間がある。また、オリエンテーション、開講式、成果発表会、修了式はハイブリッドで行った。広島見学はこの4名を除いて行ったが、ホストファミリーは全員について。

第72期(2021年10月~2022年3月)

開講式	10月6日(水) 14:30-
授業期間	10月7日(木)~3月4日(金)
休暇(冬休み)	12月27日(月)~1月5日(水)
特別講義	3月7日(月)~3月9日(水)
成果発表会/修了式	3月10日(木) 14:30-15:30 / 16:00-17:00
試験	11月26日(金)、1月21日(金)、3月4日(金)

* 新型コロナウイルスの流行による入国制限のため、全員が10月7日まで入国できず、かついつ入国できるか不明だったため、時差に応じて2グループに分け、全員が入国できるまで、オンラインでそれぞれ同じ時間数で同じ内容の授業をすることにした。授業時間は1グループあたり月曜から木曜までが2コマ、金曜が2.5コマとした。ほとんどの教員が両グループの授業を担当したが、その場合1グループあたりの担当時間は同じとした。

また、パンフレットを作り、事前にコースの概要やオンライン授業への参加の仕方、かな学習教材の紹介などを行った。かなはその教材を使って予め自主学習することを求めた。成果発表会と修了式は来日が間に合った研修生もいたため、ハイブリッドで行ったが、他はすべてオンラインで行った。見学は行わずホームステイ事業も停止した。

なお、72期の研修生の中には本国の職を休職した上で国費留学生となった者がいたが、その中には本国での給与が支給されず、来日もできないので奨学金も支給されないままの者、逆に復職して多忙を極めることになった者がいた。

補足

オンライン授業の実施には使用者の技量や使用するソフトの問題もあるが、対象国・地域のインターネット整備状況も、オンライン授業（フィードバックセッションを含む）の実施に影響があると言える。一括りにはできないが、開発途上国（日本語研修コースの研修生はほぼ全員が開発途上国出身である）は概してインターネットの整備状況がよくない。有線・無線に関わらず接続地点まで移動しなければならないなど、特に無線接続の場合、接続が不安定になるなどの問題が起こった。また、インターネットへの接続が専らスマホによっており、個人用のコンピュータ（パソコン）があまり普及していないことも、広い意味でインターネットの整備状況の問題と言えるだろう。

日本語教育部門：日本語・日本事情

2021年4月～2022年3月

田村泰男

授業科目一覧

・東広島キャンパス 1コマ（2時限）90分

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語入門A-1	28		43	
日本語入門A-2		26		38
日本語入門B-1	20		51	
日本語入門B-2		18		41
日本語初級A-1	17		14	
日本語初級A-2		17		12
日本語初級B-1	13		14	
日本語初級B-2		11		13
日本語中級A-1	11			
日本語中級A-2		12		
日本語中級B-1	16			
日本語中級B-2		18		
日本語中級C-1			24	
日本語中級C-2				23
日本語中級D-1			19	
日本語中級D-2				19
日本語中上級A-1	20			
日本語中上級A-2		16		
日本語中上級B-1	22			
日本語中上級B-2		20		
日本語中上級C-1			25	
日本語中上級C-2				23
日本語中上級D-1			30	
日本語中上級D-2				26

* 共創学科生は「教養教育ベーシック日本語」として受講

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語上級聴解A		10		
日本語上級聴解B				12
日本語上級分析A	13			

日本語上級分析B			5	
論文作成法A		10		
論文作成法B				8
日本語上級語彙A	13			
日本語上級語彙B			11	
日本語上級映像A		14		
日本語上級映像B				6
ビジネス日本語A	15			
ビジネス日本語B			10	
日本語・日本文化特別研究A-1			1	
日本語・日本文化特別研究A-2				1
日本語・日本文化特別研究B-1	4			
日本語・日本文化特別研究B-2		4		

・霞キャンパス

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語入門1	1		8	
日本語入門2		1		16
日本語初級1	9		7	
日本語初級2		9		8

日本語教育部門:留學生關係科目

2021年4月~2022年3月

田村泰男

特別聴講学生日本語科目 (交換留学生対象の一般科目) 週2コマ/8週/2単位	開設ターム 受講登録者数			
	1	2	3	4
Introductory Japanese A-1			8	
Introductory Japanese A-2				8
Introductory Japanese B-1			8	
Introductory Japanese B-2				8
Elementary Japanese A-1	1		9	
Elementary Japanese A-2		1		7
Elementary Japanese B-1	1		7	
Elementary Japanese B-2		1		8
Intermediate Japanese A-1			5	
Intermediate Japanese A-2				4
Intermediate Japanese B-1			7	
Intermediate Japanese B-2				7
Intermediate Japanese C-1			8	
Intermediate Japanese C-2				8
Intermediate Japanese D-1	6			
Intermediate Japanese D-2		4		
Intermediate Japanese E-1	9			
Intermediate Japanese E-2		6		
Intermediate Japanese F-1	4			
Intermediate Japanese F-2		3		
Upper-Intermediate Japanese A-1			22	
Upper-Intermediate Japanese A-2				21
Upper-Intermediate Japanese B-1			12	
Upper-Intermediate Japanese B-2				12
Upper-Intermediate Japanese C-1			21	
Upper-Intermediate Japanese C-2				16
Upper-Intermediate Japanese D-1	19			
Upper-Intermediate Japanese D-2		16		
Upper-Intermediate Japanese E-1	12			
Upper-Intermediate Japanese E-2		12		
Upper-Intermediate Japanese F-1	16			
Upper-Intermediate Japanese F-2		11		
Advanced Japanese Listening A-1	7		8	
Advanced Japanese Listening A-2	7		8	
Advanced Japanese Listening B-1				

Advanced Japanese Listening B-2				
Advanced Japanese Analysis A-1		2		
Advanced Japanese Analysis A-2		2		
Advanced Japanese Analysis B-1				6
Advanced Japanese Analysis B-2				6
Academic Writing A-1	4			
Academic Writing A-2	4			
Academic Writing B-1			8	
Academic Writing B-2			8	
Advanced Japanese Vocabulary A-1		3		
Advanced Japanese Vocabulary A-2		3		
Advanced Japanese Vocabulary B-1				10
Advanced Japanese Vocabulary B-2				10
Advanced Japanese Cinema A-1	9			
Advanced Japanese Cinema A-2	9			
Advanced Japanese Cinema B-1			2	
Advanced Japanese Cinema B-2			2	
Business Japanese A-1		2		
Business Japanese A-2		2		
Business Japanese B-1				8
Business Japanese B-2				8

第 36 期 (2020 - 2021)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、森戸国際高等教育学院（2010年に旧留学生センターから国際センターへ、その後2018年に森戸国際高等教育学院へ改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、大学間協定に基づき教育学部、総合科学部、文学部等で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、森戸国際高等教育学院の石原淳也准教授、名塩征史講師の二名により運営されており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と森戸国際高等教育学院にレポートを提出する。森戸国際高等教育学院では毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 36 期は大使館推薦で森戸国際高等教育学院受け入れのインド、インドネシアからの学生それぞれ 1 名、部局間協定に基づく文学部受け入れのブラジルからの学生、総合科学部受け入れのセルビアからの学生が各 1 名の計 4 名でプログラムを実施した。また、大使館推薦で配置予定のウクライナからの学生は、20-21 年度のプログラム参加を見合わせ、次年度にもう一度文科省に進学希望を出した上で、改めて配置大学が検討されることとなった。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

2019 年末から、海外での流行が報道されていた新型コロナウイルス感染症であったが、2020 年 2 月にクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号内で多数の感染者がでたことが大きく報道されると、本プログラムにもその影響が及ぶことになった。

例年、本プログラムに参加する学生は後期からの受け入れとなるため、10月初旬に渡日することになっているが、今回はコロナ禍での混乱や政府による外国からの渡航制限の影響もあり、学生は五月雨式に広島に到着し、4名全員が広島に到着したのは11月中旬であった。

また、〈受け入れ学生の概要〉でも言及したとおり、配置予定だった一名の学生が本年度、広島大学でのプログラム参加を見合わせ、次年度以降、改めて配置大学が検討されることとなった。

森戸で開設されている「日本語・日本事情」についてはオンラインで実施されていたが、2020年度後期は比較的状况が落ち着いていたため、本プログラムの学生を対象に開講されている「日本語・日本文化特別研究」はオンライン授業を基本としながらも、いくつかの講義は対面で実施することができた。しかし、21年に入ると感染者が増加し、21年度の前期の授業は全てオンラインでの実施となった。

「日本語・日本文化特別研究」に含まれる見学も、2020年度後期は、広島市郷土資料館、広島城、平和公園、平和記念資料館を巡る「広島見学1」、「宮島見学」は実施できたものの、広島市現代美術館は従来から計画されていた改修工事が前倒しとなり見学を実施することができなかった。同様に、20年度後期に予定していたマツダミュージアムの見学も休館のため中止、また、例年バスでしまなみ海道、愛媛県の松山を巡り、フェリーを使って帰ってくる「瀬戸内海しまなみ研修ツアー」も2019年度に引き続き中止を余儀なくされた。

21年度前期は、全ての授業がオンライン実施となり、計画していた見学、島根県松江市、出雲市を巡る「古事記の旅」見学旅行は全て中止、また、修了式、成果発表会もオンラインでの実施となった。

〈特別講義等〉

2020年度（第36期）に実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10月		
16日	オリエンテーション	石原
23日	言語学1（概論）	
30日	言語学2（日本語の文法1）	石原
11月		
13日	「広島とその歴史」	石原
16日	開講式	
20日	言語学3（日本語の文法2）	石原

27日	広島見学1（広島城・平和公園）	石原、名塩
12月		
4日	宮島見学	石原
11日	特別講義「HUSA 交換留学生グローバル・インターンシップ ～ 地域企業のグローバル戦略 ～」	恒松
18日	広島市現代美術館見学 特別講義「日常に潜在する記号」	名塩
25日	マツダ見学 特別講義「日本語と文体」	中川
1月		
8日	特別講義「コロナ禍の中で読む日本近代文学 将来に対する漠然とした不安」	フェレイロ・ダマソ
15日	特別講義「東北から見る近代日本史」	河西
22日	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
29日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
2月		
5日	特別講義「『異なるもの』とのコミュニケーション」	名塩
3月		
5日	研修レポート構想発表	石原、名塩
26-27日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中止
4月		
9日	特別講義「音声学・音韻論1」	石原
16日	特別講義「音声学・音韻論2」	石原
23日	特別講義「音声学・音韻論3」	石原
5月		
14日	特別講義「明治までの政治と経済1」	石原
21日	特別講義「明治までの政治と経済2」	石原
28日	特別講義「日本文学史1」	松山
6月		
4日	特別講義「日本文学史2」	松山
11日	特別講義「語用論となわ張り理論1」	石原
18日	特別講義「語用論となわ張り理論1」	石原
25日	特別講義「広島の歴史と平和」	小宮山

7月

2日	特別講義「認知心理学と日本語学習」	柳本
9日	特別講義「古事記と出雲神話 1」	石原
16日	特別講義「古事記と出雲神話」	石原

	松江・出雲見学旅行	中止
--	-----------	----

8月

6日	研修レポート中間発表	石原、名塩
----	------------	-------

9月

8日	修了式 研修成果発表会	
----	----------------	--

短期交換留学生等の日本事情教育・地域連携による国際的体験学習

恒松直美

本報告では、主に広島大学短期交換留学プログラム (Hiroshima University Study Abroad Program, HUSA プログラム) と総合科学部国際共創学科 (Department of Integrated Global Studies) の学生に向けて実施した日本事情教育及び地域と連携した国際的体験学習・国際教育について報告する。英語で行う授業、地域学校との国際教育交流、地域行政と協同するインターンシップ、多国籍留学生の実践プロジェクトなど、多国籍留学生と本学学生の国際共修及び学術知と実践知をつなぐアクティブ・ラーニングの発展について述べる。

1993年に日米文化教育交流会議 (The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange : 通称カルコン CULCON) が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995-96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム (Hiroshima University Study Abroad Program, 以下 HUSA プログラム) は、その8国立大学の1つとして1996年に開始され、積極的に学生交流を促進してきた。その経緯から、当初の本学の短期交換留学プログラムは、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。その後、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学97大学及び2コンソーシアム (University Studies Abroad Consortium, USAC 及び University Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構) と協定を締結し (2022年5月時点)、交換留学生受入れ・派遣留学を発展させてきた。日本への交換留学の主な目的は、日本語能力習得と日本文化体験である。

2021-2022年度 HUSA プログラム受け入れは25名であった。そのうち、12名が2021年度秋学期のみの1学期間参加し、13名が1年間参加した。2021年度秋学期間は、コロナ禍により渡日できず、全員がオンライン参加となった。2022年4月末に1年参加の13名のうち、11名が渡日し、2名は引き続きオンライン参加した。2022年4月からの春学期受け入れでは、8名が一学期間参加し全員が渡日した。

2021-2022年度 HUSA プログラム派遣留学に関しては、1次募集と2次募集を行った。一次募集については、2021年1月上旬に応募者の選考を行い、2021年1月下旬のグローバル化推進部会で51名の派遣が承認された。3-4月には協定大学への申請手続きを行ったが、新型コロナウイルスの影響により、渡航の2か月前に行われた渡航可否判断で、2021年度一次募集では渡航を伴う派遣は8名となった。代替策として、派遣先大学からオンライン授業の提供がある場合は留学とみなすこととし、3名がこれを受講した。二次募集につい

では、2021年7月上旬に応募者の選考を行い、2021年7月下旬のグローバル化推進部会で16名の派遣が承認された。8-9月には協定大学への申請手続きを行ったが、新型コロナウイルスの影響により、渡航の2か月前に行われた渡航可否判断で、2021年度二次募集は渡航を伴う派遣は5名となった。代替策として、派遣先大学からオンライン授業の提供がある場合は留学とみなすこととし、3名がこれを受講した。

国際共創学科(Department of Integrated Studies, IGS)は、2018年に新設された。世界中から集まった学生と一緒に学び、文化間のコミュニケーション能力、互いの相違を認め合う寛容性、国際舞台で求められる多角的視野と思考力と協調性を身に付けることを目的としている。国際共創学科の学生は、「文化と観光」、「平和とコミュニケーション」、「環境と社会」の3つの視点から学ぶ。現在、広島大学では、プログラムの枠を超え、全学の学生が共に学ぶ場が構築されつつある。筆者がHUSAプログラムの交換留学生向けに開講した日本事情や体験学習の授業を、現在ではプログラムの枠を超え様々な学生が受講している。「グローバル・インターンシップ」、Japanese Society and Gender Issues（「日本社会とジェンダー」）、Intercultural Competence and Japanese Society（「異文化間能力と日本社会」）、「異文化間理解の社会理論と実践」（大学院人間社会科学研究科で開講）等において、教育現場と地域の学校や地域社会を連携させ、本学学生と留学生が国際共修する場を構築している。本報告では、様々な日本事情と国際教育の授業の発展について振り返る。

◆ 日本の地域社会の文化・歴史見学

2003年から2019年まで、毎年10月にHUSAプログラム留学生向けに広島県呉市吉浦秋大祭見学を行い、日本文化の体験学習の機会を提供してきた。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会の組織や活動について学ぶとともに、広島大学への到着とオリエンテーションの直後から学生間の交友関係を構築し、地域の人々と交流する場を作ってきた。



◆「グローバル・インターンシップ」：地域社会との連携による国際的体験学習

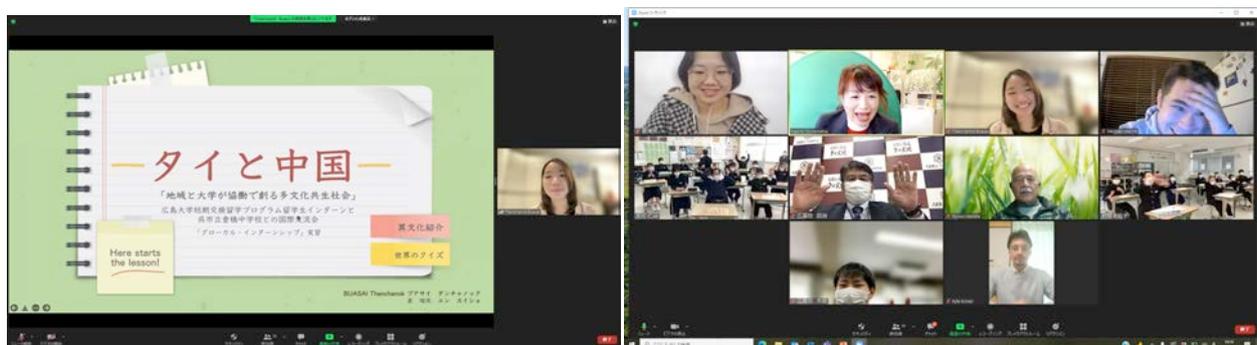
2003年度から2011年度まで、春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年春学期にHUSAプログラム留学生の受講生を地域企業と東広島市役所に2週間派遣した。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、留学生が日本社会の慣習や礼儀を理解したうえでインターンシップに参加する体制を充実させた。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開催し、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来のキャリアと留学を考える機会を作った。また、2010年度後期からは社会体験者講話に基づいたPBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築した。

2012年度秋学期からは、「グローバル化支援インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題し、新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献しつつ日本社会について学ぶことを目指し、留学生の国際的体験学習の企画や、地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図ったプロジェクト型「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の概念的知識を地域と協働して実践知として生かし、体験から学ぶ国際的体験学習の場を構築した。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは、留学生に多角的な学びをもたらしてきた。

2019年度より「グローバル・インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル・インターンシップⅡ：実習」と題して開講し、地域行政との連携をより強化し、留学生が日本の地域社会と連携し協働する力を育成しつつ地域国際化を促進するプロジェクト型インターンシップを発展させた。地域行政の協力を得て、例年、2月に、担当教員の指導のもと、留学生インターンが呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し、国際交流企画を提示する場を構築した。その実践に向け、毎年11月に『「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー』を広島大学で開催し、呉市行政関係者より企画の承認と助言を得てきた。セミナーには、呉市産業部観光振興課、呉市倉橋町の観光ボランティアガイドの会、倉橋町自治会、呉市議会、などの行政関係者を招聘し、地域社会の課題について学びつつ、留学生インターンが国際交流企画のプレゼンテーションを行ってきた。訪問者12,000人と言われる商業祭「倉橋フェスティバル」において、地域住民と留学生の交流の場をインターンの企画により実現する貴重な実践学習の場となってきた。



2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、秋学期の時点では、留学生が来日できていない状態にあり、本授業はオンラインで実施した。2022年1月に実施した呉市立倉橋中学校との国際交流企画のオンライン実習では、「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)留学生インターンと呉市立倉橋中学校との国際交流会」と題し、タイ・中国出身の留学生が中学校とオンラインで交流する企画を実施した。タイと中国の文化を紹介するとともに、留学生の母国に関するクイズを出題し、中学生との異文化間インタラクションを起す試みを行った。本実習の実現に向け、2021年12月に、呉市行政及び呉市行政の協力を得て「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナーをオンラインで開催した。地域行政関係者より示唆を得るとともに、過去に実習を体験し、現在日本で就労しているOBインターン留学生（韓国出身）を招聘し、インターンシップの体験が自身のキャリアに与えた影響について体験談を聞いた。現在JETプログラムのALT（Assistant Language Teacher）として沖縄で勤務するアメリカ人のOBインターン留学生（HUSAプログラム2019-2020年度参加）も参加した。また、本セミナーには、留学生との異文化間教育の共修の導入を検討する広島県の高等学校の教員の参加もあった。



◆ 多国籍留学生による地域と協働する実践研究グループ・プロジェクト

2015年度より「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」を実施し、多国籍チームを構成して地域と協働する実践プロジェクトに取り組んできた。

2015-2016 年度は「多文化共生への貢献」、2016-2017 年度は、「自助支援」、2017-2018 年度は「ホームシック対策」、2018-2019 年度は「大学における異文化適応と再適応の支援」、2019-2020 年度は「留学生の自助支援～広島新発見～」をテーマとして取り組んだ。地域行政関係者、市議会、学内関係者、学校関係者の参加を得て地域公開の中間発表会・最終発表会を開催して協議する場を持ち、プロジェクトへのフィードバックを得てきた。「広島大学紹介ビデオ撮影に挑む1」、「HUSA 留学生おすすめリスト」、「留学準備・到着後ガイドブック」など自助支援のプロジェクト成果を発表し、成果を役立てる試みも行っている。留学生の各出身大学における留学のサポートシステムの発表は、他大学の支援システムを学ぶ機会となっている。セミナーでは、「カルチャーショックとは」、「体験学習・協同学習の意義」、「留学からの帰国準備：逆カルチャーショック」（筆者担当）など、留学における異文化適応の支援やプロジェクト学習について学ぶ講義も行ってきた。

◆ オンラインによる「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」

2020 年 1 月より、新型コロナウイルス感染を防止するための施策が大学で講じられてきた。そのため、2020 年度春学期は、授業やセミナーを、コロナ禍の現状を考慮しつつ、大学の方針に基づき開催する状況となった。多国籍留学生による実践プロジェクトである「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」（2019-2020 年度「留学生の自助支援～広島新発見～」）も 3 月からはオンラインによる発表へと移行した。中間発表会（2020 年 4 月開催）、最終発表会（2020 年 7 月開催）はすべてオンライン（Microsoft TEAMS）で開催し、学内関係者、学生、地域行政関係者の参加を得、貴重なフィードバックを得た。「西条温泉ガイド」、「コロナ禍における留学生の生活」、「西条の中古店」、「西条での生活ガイド：食事制限」など留学生が完成したプロジェクトは、留学生の自助支援に役立てるべく、筆者の教育・研究ホームページに掲載している。



◆ 留学生と地域学校との国際教育交流

HUSA プログラム留学生は、2014 年度より、広島県立日彰館高等学校による「日彰館高校グローバル人材育成プログラム」の一環として開催される「おもてなしホームステイ」に参加してきた。おもてなしプラン「国際交流行事」（筆者担当）を 2015 年度より筆者が企

画し、留学生によるスピーチ発表や高校生・教職員・留学生の全員が参加する異文化インタラクシオンの場を構築してきた。2020年度は、地域中学校・小学校や地域住民からも参加を得て、200名を超える国際交流会を11月20日にオンラインで開催し、筆者の授業（“Japanese Society and Gender Issues”と“Glocal Internship”）の授業の受講者が参加した。2021年度も、引き続き授業の一環としてオンラインで国際交流会を11月4日に開催した。広島大学学生22名、日彰館高等学校生徒178名、吉舎中学校1年生22名、吉舎小学校6年生16名など、参加者は200名を超えた。「おもてなしタイム」では、書道・剣道の日本文化紹介、中学校の平和学習発表、地域紹介、ホストファミリーの挨拶があった。留学生からは英語と日本語による自己紹介のスピーチを行った。イギリス・フランス・アメリカ・メキシコ・ロシア・中国・香港・タイ・バングラデシュ・日本からの参加者がオンラインでつながる体験となった。



◆ 「異文化間コミュニケーション」セミナー：留学生と高校生の国際共修

2022年3月16日に広島県立日彰館高等学校において、外部講師による授業「英語表現 I」の一環として、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で「異文化間コミュニケーション」「Intercultural Communication」セミナーを英語と日本語で行った。講師（筆者）による対面の授業を日彰館高校で実施し、海外在住の留学生（フィンランド、ポーランド、タイ、メキシコ）がオンラインで参加した。高校生と海外在住の留学生とがオンラインでつながる国際共修の場となった。2021年11月に開催した日彰館高校と海外在住の留学生とがつながるおもてなし国際交流会（対面とオンラインのハイブリッド形式）では、学びをさらに高めたいとの声が高校生からあり、その要望に応えるべく、異文化間能力育成を目的として開催した。

2019年に日彰館高校を訪問しホームステイをしたOB留学生（フィンランド出身）も参加し、時空を超えて留学生と地域がつながる場となった。日彰館高校の1年生1組(28人)と2組(26人)の2つのセッションを実施し、フィンランドの学生からの広島大学への留学体験、日本への入国を待つ留学生の思い、文化の違いに関する留学生の見解などを聞く機

会が持てた。日本にいながら海外の学生とつながる体験は、高校生にとり大きな刺激となり感動の声があった。高校生は、「留学にチャレンジして英語を話してみたい」と海外留学や異文化体験への今後の挑戦への意欲を見せた。



◆ 広島大学出張講義：大学生と地域高校との国際共修

留学生と地域の高校生徒を結ぶ国際共修の場は、広島大学の出張講義としても拡大している。2021年7月15日に、広島大学大学院人間社会科学研究科教育学コースによる宇部フロンティア大学附属香川高校への出張講義を行い、フランスからのHUSAプログラム交換留学生とHUSAプログラムOB留学生のアメリカ人学生が参加した。「大学国際化・異文化間理解」(“Internationalization of University and Intercultural Understanding”)と題して講義(オンライン)を行い、留学生から日本留学におけるカルチャーショック体験や帰国後の逆カルチャーショック体験について聞く場も設けた。高校生には留学生の実体験を知る貴重な機会となった。高校生からは、「留学楽しそう」、「国際化の大切さがわかった。留学してみたいと思った」、「大学に行けて、留学生がいたら仲良くなりたいと思った」、「逆ホームシックということを知った」などの感想があり、新鮮な体験となったことが伺えた。グローバルな視野から高校と大学をつなぐ高大接続の国際教育の場を構築する重要性を高校生とともに再確認できた。



◆ 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール：国際的視野からの研究

2021年10月18日には、広島大学附属高等学校における「スーパーサイエンス・ハイスクールFS(Frontier Science)に向けた講演を「大学国際化・異文化間理解～国際的に活躍する研究者を目指して～(英語・日本語)」“Internationalization of University and Intercultural Understanding : Becoming an International Researcher”と題して行った。大学の国際化や異文化間理解における課題、カルチャーショック・逆カルチャーショックについての本講義には、約200名の第一学年の高校生が参加した。海外からは、アメリカ、メキシコの交換留学生・留学生OBがオンラインで参加した。広島大学に留学中のインドネシア・マレーシア・中国の大学院生も参加し、様々な留学体験について語った。高校生には、世界の留学生とオンラインで英語によりつながる新しい国際教育の体験の場となり、熱心に聞き入る姿があった。



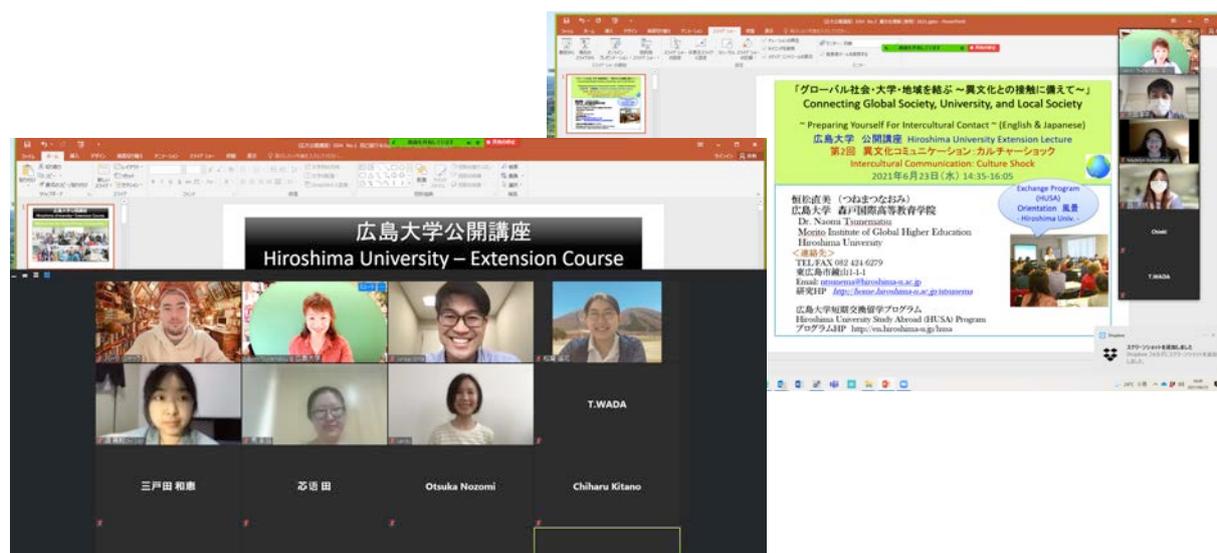
◆ 広島大学附属高等学校生徒による国際的研究への支援

2021年12月16日に、「スーパーサイエンス・ハイスクールの「GS総合科学探求」の研究プロジェクトにアメリカ出身のHUSAプログラムOB留学生が協力した。GSコースでは2021年度は約40の研究プロジェクトが進行し、科学・社会科学・人文科学の幅広い分野の中から生徒自らが研究テーマを設定して取り組んだ。「日本の企業がアメリカに進出するための効果的な広告」をテーマとして取り組むグループが、異なる文化からの新しい視点や意見を聞くためのインタビューをアメリカ人学生に行った。新しい知見を熱心に聞く高校生の姿から、世界とつながる高大接続の授業や研究の発展の意義がみてとれた。

◆ 広島大学公開講座

2017年度より、広島大学公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」を開講してきた。留学生にも参加を促し、英語・日本語を使用して世界各国からの留学生の意見も聞きながら地域の皆様とのインタラクションを起こす形式で実施

してきた。2021年度は2021年6月16日・23日にオンラインで実施した。広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）留学生と「異文化間理解の社会理論と実践」を受講している大学院生が参加した。HUSAプログラムからは、イギリスのカーディフ大学出身の留学生とアメリカ在住のUSAC (University Studies Abroad Consortium) 留学生が参加した。コロナ禍での異文化体験や異文化間での礼儀の相違に関する見解など、留学生の貴重な体験を参加者と共有することができた。オンラインの公開講座には全国から様々な異文化体験を持つ方々の参加があった。日本留学に関する留学生の生の声を聞きつつ、異文化間コミュニケーションやカルチャーショックについて相互の体験を共有し共に考える場となった。



留学生に向けて実施する日本事情教育及び地域と連携した国際的体験学習・国際教育は、毎年進化をとげている。国際共修の場には、日本出身の学生や他のプログラムの留学生も参加し国際の輪が広がりつつある。留学生が日本を留学先として選択する理由の一つとして、日本社会への強い関心がある。留学生と広島大学の学生及び地域社会との関りは、日本語能力を現場で試す貴重な体験となるとともに、日本文化の理論的理解を現場で再確認する場となっている。さらに、地域学校や地域行政の関係者と関わることで、日本留学の体験を将来のキャリアにどうつなげていきたいかを再検討する場となっている。体験学習には新しい発見も多く、留学生は自らの体験から絶えず学び、日々刺激を受け、新しい目標へと向かっている。

JOP プログラム（日本語・日本文化オンライン・プログラム）

荒見泰史・迫田久美子・陳斐寧

〈プログラム概要〉

日本語・日本文化プログラム（以下、本プログラム）は、本学と大学間交流協定又は部局間交流協定を締結している中華人民共和国の大学に在学する学部学生に、日本語・日本文化教育をオンライン（同時双方向型）により実施することを通じ、当該学生の日本語能力及び日本文化に対する素養を高め、日本へ留学できるレベルに日本語スキルを向上させるためのプログラムである。具体的には、日本語能力試験（JLPT）N4、N3 レベル相当の日本語能力をN2 レベル以上に引き上げることを目標とする。

〈出願資格〉

以下の(1)及び(2)に該当する者。

- (1) 本学と大学間交流協定又は部局間交流協定を締結している中国の大学に在学し、中国に在住している学部学生。
- (2) 広島大学森戸国際高等教育学院のオンライン・プレースメントテスト（日本語能力試験（JLPT）N4以上の日本語能力があるかを測定するためのオンライン試験）を受験していること。

〈選抜方法〉

書類審査、オンライン・プレースメントテストにより総合的に判断し、合格者を決定する。

〈実施期間〉

2021年12月1日～2022年9月30日（休業期間含む）。

〈履修科目〉

プログラムで履修する授業科目：本プログラムを受講する学生は、広島大学特別聴講学生として、以下の授業科目を全て履修する。*修了要件単位数：14単位 *修了者には広

島大学特別聴講学生としての学業成績証明書を発行し、「日本語・日本文化オンライン・プログラム（日语・日本文化网络课程）修了証書」を授与する。

科目区分	授業科目	単位数	履修期（日本時間）	履修区分
日本語科目	オンライン初級日本語A	2	2021年度第4ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	必修
	オンライン初級日本語B	2	2021年度第4ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
	オンライン中級日本語A	2	2022年度第1ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	
	オンライン中級日本語B	2	2022年度第1ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
	オンライン中上級日本語A	2	2022年度第2ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	
	オンライン中上級日本語B	2	2022年度第2ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
日本文化科目	東アジア文化の世界A	1	2021年度第4ターム (集中)	必修
	東アジア文化の世界B	1	2022年度第1ターム (集中)	

〈受け入れ学生概要〉

第1期(2021年12月—2022年9月)10名

学生1	陽光学院	学生6	華南理工大学
学生2	吉林師範大学	学生7	寧波工程学院
学生3	閩江学院	学生8	首都師範大学
学生4	上海師範大学	学生9	首都師範大学
学生5	天津科技大学	学生10	首都師範大学

〈講師一覧〉(五十音順)

(1) 日本語科目

専任 迫田久美子、陳斐寧

非常勤 徐婕、野地知子

(2) 日本文化科目

阿部泰郎(名古屋大学名誉教授)「東アジア宗教テキスト往還が生み出す文化遺産(一)(二)」

荒見泰史(広島大学教授)「敦煌変文から白話小説へ」、「敦煌讲唱文学写本—动态与静态之间(一)(二)」

近本謙介(名古屋大学教授)「仏教伝来の道 - 『玄奘三蔵絵』の構造と構想 -」

白須浄眞(元広島大学准教授)「21世紀の日本のアジア広域調査活動」

松尾恒一(国立歴史民俗博物館教授)「明清代、東シナ海・南シナ海をめぐる海盜の活動と記憶(一)(二)」、「中国仏教の東漸1 中国仏教の日本への伝来」、「中国仏教の東漸2 中国仏教の日本への伝来」唐宋代密教と浄土信仰の拡大」

柳瀬善治(広島大学准教授)「日本近代文学史(一)」

吉田一彦(名古屋市立大学名誉教授)「日本における仏法の受容と展開」、「仏法と神信仰の融合」

以上の授業はすべて日本語で行われたが、中国語訳がつけられている。

〈学習カウンセリング制度〉

本プログラムの学生一人ずつと面談をし、日本語学習の不得意な分野について具体的な助言をしたり、テストの結果を示して個別学習の支援を行う。

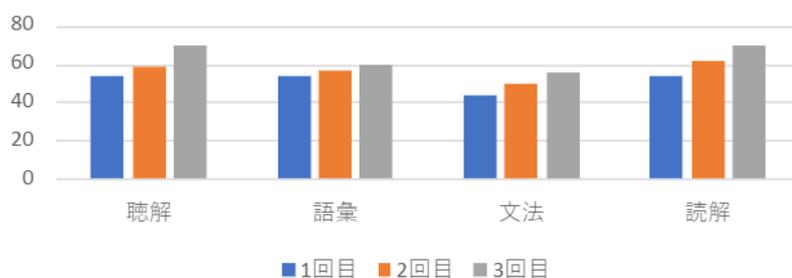
〈チューター制度〉

日本語学習の動機づけを維持し、実践の機会を増やすために、本プログラムの学生には、一人ひとりに広島大学の学生が日本語のチューターとして、週2回の日本語能力向上のためのサポートを行う。

〈具体的な成果〉

(1) 日本語能力の向上

本プログラムでは、日本語能力の向上を測定するために、オンラインによる日本語テスト「J-CAT (<https://j-cat.jalesa.org>)」を受験した。1回目2022年1月17日、2回目2022年3月17日、3回目2022年6月20日に計3回実施し、平均得点から判断して、日本語の学習達成度が着実に伸びていることがわかる。



	聴解	語彙	文法	読解	合計
1回目	53	53	43	53	202
2回目	59	57	49	62	227
3回目	70	60	56	70	256

(2) 本学への留学について

本プログラムの学生1名が本学の3+1プログラムに応募し、留学が決定した。また、その他の学生たちも今年の応募に向けて準備したりするなど、N1取得に向けて学習を続けている。

以上のように、本学初の試みとなる、本学と大学間交流協定又は部局間交流協定を締結している中華人民共和国の大学に在学する学部学生にオンラインで広島大学の授業を提供するという第1期事業は成功裏に終えることができた。

授業を提供して下さった学内・学外の教員の皆様、本プログラムを多方面から支えて下さった職員の皆さまに深く感謝申し上げます。

〈学生の感想〉授業に関するインタビューの回答（中国語）から一部掲載

很多很多可以提升口语的机会，让我预想之外提升一些东西。会每个人配一个小老师，特别特别有感触的点是影子阅读，在这个课程里面最好的可能是影子阅读。（日本語訳：スピーキングの練習をする機会を数多く得て、想像以上の専門知識を獲得することができました。一人一人にチューターがいるのが有難かったです。特にシャドーイング学習をするのが初めてなので、私にとって一番効果的な学習でした。） - Aさん

像我这种非日语专业的同学来说，在课上的日语环境的对话是非常非常少的，所以对我来说进入这个课程最大的收获是，有了能跟真正能够使用日语的人的对话机会。（日本語訳：私のような日本語学科出身ではない学生にとっては、これまで日本語を使う機会は殆どありませんでした。専門知識を学ぶ以外にこのプログラムでは日本語を使ったり先生と会話したりするチャンスがたくさんあったので、とても役に立ちました。）

- Bさん

我有听说广岛大学的教育学是广岛大学非常领先的学科，确实每个老师的教学方法都非常好。（日本語訳：広島大学の日本語教育はとても進んでいると聞いています。このプログラムの先生はそれぞれ授業に持ち味があり、とても勉強になりました。）

- Cさん

老师好负责好负责好负责，没有像到会这么负责，而且回信也都特别详细。（日本語訳：先生たちは皆責任感があり、そのきめ細かい指導に私は感心しました。メールの返事も大変詳しい説明でよかったです。）

- Dさん

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）
中国語・中国文化特別研修
華語・台湾文化特別研修

荒見泰史・小宮山道夫

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）

本プログラムは、母語に漢字を使用する国及び地域にあたる漢字圏と、それ以外の非漢字圏の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台間そして日本と諸外国との交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

2021(令和3)年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な流行を受けて、中華人民共和国、台湾、非漢字圏の3プログラムを全てオンラインで実施した。

夏期（台湾）	6月28日～7月9日(10日間)	6名	（オンライン）
（中国）	7月12日～7月22日(10日間)	132名	（オンライン）
（非漢字圏）	7月26日～8月6日(10日間)	16名	（オンライン）
冬期（非漢字圏）	1月10日～1月21日(10日間)	7名	（オンライン）
（台湾）	1月31日～2月11日(10日間)	11名	（オンライン）
（中国）	2月14日～2月25日(10日間)	210名	（オンライン）

全プログラムを全てオンラインで実施したこともあり、年間の参加者総数382名とプログラム創設以来最大規模の研修生を迎えることとなった。以下、今年度特有の事情と新たな取り組みを中心に述べることとする。

(1)実施時期

昨年度の経験からプログラムは平日10日間の日程が定着した。日程を設定するうえでの懸案事項は、延期されて今年開催されることとなったオリンピックにより夏期の対象時期の祝日が移動することと、冬期の春節の時期をどう扱うかという2点であった。夏期日程に関しては7月23日（金）が海の日、7月24日（土）がスポーツの日にそれぞれ変更されたため、中国の日程と重なり、23日をプログラムの日程に入れるかどうか争点であった。通常であればプログラム最終日となるが、事務職員に祝日に勤務させることはできず、事務の協力を得られないまま閉講式を含む最終日を迎えることはリスクがあった。ま

た講師を確保できるかどうかやや不安があった。このため変則的とはなるが、第一週を土曜日まで6日間連続で実施し、第2週は22日(木)が最終日となるように変更した。プログラムの中間地点の土曜日であれば事務の支援がなくとも、本田教授と小宮山とで授業を提供することにすればトラブル発生の可能性を低減できるためである。確定した日程は以下の通りである。

2021年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修(中国)日程

日	曜日	二コマ目	三コマ目	四コマ目
		10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05
7月12日	月		開講式・ オリエンテーション	学生交流・相互学習
7月13日	火	風呂敷文化 小倉 亜紗美	原爆と広島平和記念都市 小宮山 道夫	学生交流・相互学習
7月14日	水	折り紙文化 ハーレー 静代	現代日本語の受け身と使役 深見 兼孝	東広島市歴史文化研修
7月15日	木	日本の絵画 金田 晋	A 教室では習わない日本語 佐藤 暢治	学生交流・相互学習
			B 日本語の敬語 小宮山 道夫	
7月16日	金	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	東広島市の動植物 清水 則雄	広島市歴史文化平和研修
7月17日	土	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	料理の日本語 本田 義央	学生交流・相互学習
7月19日	月	世界遺産宮島の歴史と文化 荒見 泰史	けん玉文化 DAMA けん	留学説明会
7月20日	火	学生交流・相互学習	卒論から見た学習や研究及び将来性 李 均洋	
7月21日	水	「日本史」を疑う？ 河西 英通	日本語学習と認知心理学 柳本 大地	世界遺産宮島 歴史文化研修
7月22日	木	日本語の助詞 名塩 征史	朗読で楽しむ日本の童話 溝渕 園子	成果発表会・修了式

冬期の春節対応に関しては、2022年の春節は2月1日(火)で春節休暇が1月29日(土)に始まり2月6日(日)に終わることから、この日程を避けてプログラムを組むとすると、非漢字圏を2月下旬から3月上旬に実施する以外には不可能であった。しかしその場合、非漢字圏のプログラムに例年学生を派遣してくれている協定校の授業期間がすでに始まってしまうことから、参加者数の減少が目に見えていた。そこで2020年度冬期と2021年度

夏期の研修の修了生たちを対象に、10月7日から14日にかけてWEBアンケートを実施した。

アンケート対象者中国280名、台湾12名、非漢字圏33名のうち、中国58名(20.7%)、台湾8名(66.7%)、非漢字圏7名(21.2%)の回答が寄せられた。中国も台湾も1月下旬を中心に実施する希望が多く、春節を含む日程となってもあまり気にしないという回答が寄せられた。非漢字圏については実施希望日程のばらつきが多く判然としなかった。

これらの結果から、例年とは異なり非漢字圏を最初に実施し、期末試験期間のため交流学生として活躍する広島大学生の確保が難しい1月下旬を避け、春節休暇を前半に含む日程で台湾を実施し、2月後半に中国を実施するという日程とした。

なお、非漢字圏については対象国・地域の拡大のため、つてをたどってウクライナとカザフスタンの大学に新たに声かけを試みた。そのうち反応のあったウクライナのキエフ国立大学が1月下旬から授業開始になるとの情報を得たこともあり、日程を考慮した。インドネシアでも2月から授業期間が始まる大学があるため、今後の非漢字圏の冬期研修は1月実施を主軸に考案することになる見込みである。

(2)授業時間

オンラインの授業時間については、中国と台湾は時差1時間のため、昨年度同様日本時間10時30分(現地時間9時30分)からとなる2コマ目開始の1日3コマ構成を継承した。非漢字圏については先述の通りウクライナを対象国として加えたことと、英国から研修についての照会が無い込んだこと、そしてスピーチコンテストを実施しており対面での参加実績もあるリトアニア、世界展開力アフリカ事業の実施中であり対面での参加実績のあるエジプトなどからの需要も考慮して、欧州やアフリカを視野に入れた時間設定を試みた。夏期については日本時間14時35分(英国6時35分(サマータイム)、リトアニア7時35分)からとなる4コマ目から6コマ目(終了19時20分)の時間を設定した。冬期については16時20分から21時20分の5コマ目から7コマ目までの時間を主軸とし、見学先の営業時間や事務職員の勤務時間を考慮して4コマ目も適宜設定する不規則な日程とした。

今年度の非漢字圏の授業時間変更という実験的な試みについては、結果的に参加校が前年度と同様インドネシア共和国1国のみとなったため、時間を夜間にずらしての実施したこと自体はあまり意味のないこととなってしまったが、4～6コマ目や4～7コマ目の実施も不可能ではないことが明らかとなった。但し事務職員の支援を受けづらい実施形態であることは今後の課題となる。

2021 年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修(非漢字圏) 日程

日	曜日	四コマ目	五コマ目	六コマ目
		14:35-16:05	16:20-17:50	18:05-19:20
7月26日	月	開講式・ オリエンテーション	けん玉文化 DAMA けん	学生交流・相互学習
7月27日	火	東広島市歴史文化研修	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	学生交流・相互学習
7月28日	水	日本の絵画 金田 晋	原爆と広島平和記念都市 小宮山 道夫	日本語学習と認知心理学 柳本 大地
7月29日	木	世界遺産宮島の歴史と文化 荒見 泰史	日本語の助詞 名塩 征史	日常の日本語 本田 義央
7月30日	金	「日本史」を疑う？ 河西 英通	東広島市の動植物 清水 則雄	学生交流・相互学習
8月2日	月	教室では習わない日本語 佐藤 暢治	風呂敷文化 小倉 亜紗美	留学説明会
8月3日	火	世界遺産宮島 歴史文化研修	現代日本語の受け身と使役 深見 兼孝	学生交流・相互学習
8月4日	水	折り紙文化 ハーレー 静代	日本語音声学・音韻論 石原 淳也	学生交流・相互学習
8月5日	木	広島市歴史文化平和研修	日本の文学と芸術 松山 由布子	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫
8月6日	金	日本の特別支援教育 崔 明福	「わかる」から「できる」へつなぐ 日本語コミュニケーション 迫田 久美子	成果発表会・修了式

2021 年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修(非漢字圏) 日程

日	曜日	四コマ目	五コマ目	六コマ目	七コマ目
		14:35-16:05	16:20-17:50	18:05-19:20	19:50-21:20
1月10日	月	開講式・ オリエンテーション	原爆と広島平和記念都市 小宮山 道夫	学生交流・相互学習	
1月11日	火		現代日本語の 受け身と使役 深見 兼孝	グローバル社会における 異文化コミュニケーション 田北 冬子	学生交流・相互学習
1月12日	水	東広島市歴史文化研 修	東広島市の動植物 清水 則雄	日本語学習と認知心理学 柳本 大地	
1月13日	木		日本の絵画 金田 晋	風呂敷文化 小倉 亜紗美	学生交流・相互学習

1月14日	金	広島市歴史文化平和 研修	日本語の助詞 名塩 征史	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	
1月17日	月	留学説明会	折り紙文化 ハーレー静代	けん玉文化 DAMA けん	
1月18日	火		日本語音声学・音韻論 石原 淳也	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	学生交流・相互学習
1月19日	水		教室では習わない日本語 佐藤 暢治	日本語で数える 本田 義央	学生交流・相互学習
1月20日	木	世界遺産宮島 歴史文化研修	大学国際化・異文化間理解 恒松 直美	俳句を作ろう 本田 義央	
1月21日	金		「わかる」から「できる」へつなぐ 日本語コミュニケーション 迫田 久美子	「日本史」を疑う？ 河西 英通	成果発表会・修了式

各コース共通 オンデマンド授業：百々 隆雄「日本アニメの基礎知識」約2時間

(3)管理運営体制

本研修は元来国際センターそしてその後継組織である森戸国際高等教育学院の単独事業として実施してきたが、2020(令和2)年10月に設置され12月から活動を始めた法人本部のグローバル化推進会議グローバル化推進部会が審議する留学生受入事業のタスクのうち「語学・文化研修プログラム」タスクの一部として位置づけられることとなった。具体的にはグローバル化に関わる理事・副学長・副理事と各部局選出の委員、国際部長、その他議長が必要と認めた者を委員とした会議体が設置され、各委員がタスク担当として任命されるとともに、大学全体の国際戦略のなかでPDCAサイクルを用いた事業実施とグローバル化への対応に関する全学体制の構築と見える化を目的として活動を行う管理体制のもとに組み込まれることとなった。「語学・文化研修プログラム」タスクについては大学院人間社会科学研究科・法学部の金咲侏准教授が指定され、毎月1回程度開催される同部会において実施状況の報告とその検証が要求されることとなり、2021(令和3)年3月にはこの体制が始動したことが研修担当者に知らされた。これにより21年度の研修の打合せから金准教授が関わることとなった。金准教授による提案を受けて非漢字圏の対象国・地域を拡大すること、その前提としてこれまで募集要項のみに英訳を付していたものを拡大し、全講義内容についても英訳をつけて案内し、本研修の魅力ができる限り伝わるように改善を進めることとなった。また対象国・地域の拡大についてはその端緒として、隣国でありながらこれまで十分に広報できていなかった韓国やロシアへの広報に取り組むとともに、順次関係のある国と地域への広報に努めることとなった。

(4)正規授業科目「国際交流スキルアップ演習」の創設

本研修の学生交流に参加する学生たちの教育効果とモチベーションを高めることと学生数を拡大する意味を含め、本稿で扱う各研修と連動させた正規授業科目の創設を荒見泰史教授が昨年度から準備し、今年度前期より開設することができた。主担当教員は荒見、副担当教員は小宮山、前期・後期の集中科目として設定した演習で、「広島大学で組織的に行われる国際ボランティア活動（日本語・日本文化特別研修の補助業務など）に参加し、教員指導の下で行われる様々な行事（学外研修活動、言語教育活動）の補助を行いつつ、大学の国際交流、学生交流に関するスキルを身につける」ことを目標とする「国際交流スキルアップ演習」である。前後期各1回開講し、最大2単位を取得できる制度設計にしている。集中講義のため教務情報システム「もみじ」から学生自身では受講登録できない設定であることから担当教員に連絡して受講登録をするという手間が必要となるが、本研修の交流学生として参加した学生を中心に受講を勧め、前期は本研修の交流参加者4名が登録し、単位を認定した。後期は17名の受講生があり、本研修の交流参加者からは1名が登録し、単位を認定した。

(5)課題と所感

オンライン研修を進めるうえで重要な課題のひとつとなっているのが2020年度より懸案であったクレジット決済の導入であったが、導入にあたっては設定が煩雑で本研修の時期に合わせて調整するのは難しいとして見送られることとなり、今年度も海外送金によって研修費を徴収した。海外送金は銀行の仲介手数料が一定で無いため、全体で1割程度の入金不足が発生し、その対応で事務が煩雑化している。今後の課題である。

本研修は正規課程の教育活動では無いため、本学が導入している個人評価KPIについては全く反映されていない。今年度の実施にあたり、担当予定講師から個人評価KPIにどのように反映されるのかとの照会が入ったため再確認を行ったが、法人本部総合戦略室からはやはり研修なので授業として認めることはできずA-KPIとして計上できないとの回答が寄せられた。可能性としてはB-KPIの社会貢献「その他の社会活動（5ポイント）」としての計上もあり得るかも知れないが、そのポイントの妥当性をはじめ講義の担当と運営の担当との差別化や、そもそもそのポイントの妥当性をどこで審議するかも明らかでない点も課題である。

コロナ対応下のため、交流学生の確保は難しくなっている。上記(4)で述べた演習の開設は実現したものの、対面でない交流は訴求力に弱く、演習に興味を示して連絡してきた学生のうち3名は対面でないことを理由に受講を取り止めた。オンライン交流なりの魅力もあるが、それを未経験者に伝えることはなかなか難しい。今後もオンラインを継続しなければならぬ場合には継続的な課題となるだろう。また本研修ではけん玉文化の体験授業

として、学生サークル「DAMA けん」に担当をお願いしてきているが、昨年度は新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の影響を受け、サークル活動全体が停止措置を受け実施できなかった。今年度はサークルとしての活動許可を得ていたものの、新入部員が少なく部員数が減少し、けん玉の対面指導の機会も減少した上、数少ないオンラインでの指導の機会もあまりうまくいかなかったとのことで授業提供が危ぶまれた。しかしオンライン配信のための補助アルバイトをつけ、研修担当教員もサポートすることによって、夏期・冬期ともに無事に実施することができた。コロナの収束を願う一方で、オンライン対応のノウハウが蓄積されてきた点は喜ばしく思う。

2018年の西日本豪雨災害以来、天災に対する対応も懸案のひとつである。今夏の中国コースでは初日が落雷をともなう大雨でのスタートとなった。不幸にも大学内も落雷により約15分間の全面停電となり、開講式・オリエンテーションは約8分間中断し、携帯電話回線での一時的な復旧でオンラインを繋ぐという実施体制となった。ゲリラ豪雨や線状降水帯といった近年頻発する気象現象は対面での実施においては運営上深刻な課題であるが、オンラインにおいても無縁では無いことを実感する一件となった。

今年度はオンライン研修の質的向上とオンラインの強みを生かした対象地域の拡大を試みた1年となった。前者については一定の成果を得られたが、後者についてはまさにこれから広げようときっかけ作りを始めたウクライナとロシアとが戦争状態に陥るという予想外の事態となってしまった。一刻も早い和平の到来と当該国以外の国・地域を含めたより広い範囲からの本研修への参加拡大を切望する。

2. 中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国）との双方向性をもつ派遣研修として長く実施されてきた。また2017年度からは3. 華語・台湾文化特別研修とともに、学生支援機構の海外留学支援制度の援助を受けた「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。「東アジア展開力強化プログラム」の趣旨は、①広島大学の通常学期期間中に実施される外国語トライリンガル特定プログラムや中国文化論などの授業とあわせて現地で学ぶことにより、今日のアジア社会の背景にある歴史、文化、言語、思想、信仰などをより身近に理解する、②研修期間中の学生交流を通じて若者間の人的ネットワークを構築する、③通常学期期間中の特定プログラムなどの授業と組み合わせることにより、継続的に学びを続けることができ、将来的に中国、台湾などへの留学へと導くことが可能である、というものである。なお、本プログラムでは、成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」の単位を期間中の合計学習時間30時間あたり1単位に振り替えることができるようになっている。

2021年度は、早い時期からコロナの影響で渡航が困難なことが予想され、授業を担当する首都師範大学とも早くからオンラインで実施するよう準備を進めていた。昨年に引き続き授業料不徴収となったこと、ベーシック中国語などの授業で学生たちに周知していたことなどにより、参加希望学生も2020年度と比べて日本人学生25名と多くの申し込みがあった（うち2名は後に辞退）。

プログラムは8月30日（月）から9月10日（金）の2週間の日程で行われた。午前中は首都師範大学教員による中国語の授業で、中国での実施と同じ北京時間8:30（日本時間9:30）から12:00（日本時間13:00）まで合計10日間行われ、午後には前年度と同様に文化体験として「中国書法」、「中国剪紙（切り絵）」、「中国美術（中国画）」、「中国音楽」、「中国結（組紐）」の5種の体験型の授業が用意された。また学生交流も行われ、広島大学に在学する中国語ネイティブ学生7名が参加して活発な交流が行われた。オンラインということもあり、日本へ入国できていない渡日待ちの留学生にも参加を依頼しており、中国人留学生にとってもよい交流の場となったのではないかと思われた。最終日には成果発表会をやはりオンラインで開催した。ほとんどの学生が5分程度の発表を中国語で用意し、事前に調査した中国文化についての内容を流暢な中国語で報告した。中には事前に動画編集ソフトを使って短編ビデオを作成して放映した学生もおり、オンライン授業が続く中、こうした電子媒体に関わるスキルを向上させた学生も多く見受けられた。

3. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として2014年度から実施されてきた。また、2. 中国語・中国文化特別研修と同様に、2017年度からは学生支援機構の海外留学支援制度の援助を受けた「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。例年、教員引率のもとに実地研修（天燈体験、寺院参拝、故宮博物院見学など）や、現地学生との交流会がほぼ毎日設定され、終了後には、学生には修了証と成績書が与えられる。この成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」の単位を期間中の合計学習時間30時間あたり1単位に振り替えることができるようになっている。

ただ、2020年度以降はオンラインによる実施を続けている。台湾の協定大学からはオンラインによる華語の授業は提供できるとの回答があったが、「広島大学東アジア展開力強化プログラム」として学生支援機構の海外留学支援制度の援助を受けることができず、予算の関係上、華語の授業はTF（ティ칭ング・フェロー）の資格を持つ中国語ネイティブの広島大学大学院博士課程後期学生によるオンライン授業の形で実施を続けざるを得なくなっている。なお、この場合には協定大学の提供するプログラムではないので単位互換はで

きず、広島大学での修了書を発行する形式をとることになった。

そのような事情もあり、2021年度の華語・台湾文化特別研修は、新たな試みとして午前の華語研修と、午後の文化体験を別プログラムとして形式的に分けて実施した。そのもう一つの理由は、コロナ渦の続く中で渡日できない台湾留学生、中国人留学生（とくに3+1プログラム留学生）も授業に出席できる形にできるのではないかと考えたからである。午前の華語研修と午後の文化体験を分けて参加できる形式にすることにより、午前だけの参加、午後だけの参加をともに可能にし、参加への自由度を増すことにしたのである。広島大学では2021年度より新たにe-STRATプログラムが開始されていることもあり、午後の文化体験は、このe-STRATプログラムの制度に枠組みの中で実施することになった。形の上では、午前の「華語・台湾文化特別研修」と午後の「e-STRATプログラム」という変則的な形となったのである。ただ、趣旨からいえば連続性のあるプログラムという位置づけから出発しているので、本稿ではe-STRATプログラムとともに概要を説明しておく。

2021年度プログラムは2月28日（月）～3月11日（金）の2週間の日程で行われた。午前中はTFによる華語の授業で、広島大学での授業実施時間と同じ日本時間8:45から12:00まで合計9日間行われた。教材は台湾文化が学べるようになっている語学教材で、広島大学で独自に作成使用しているものである（以上、華語・台湾文化特別研修部分）。この午前の華語研修は学生参加者13名での実施となった。午後は国立歴史民俗博物館松尾恒一教授、台湾国立政治大学中文系楊明璋教授、本学人間総合科学研究科李郁蕙准教授、森戸国際高等教育学院陳斐寧准教授、国際室嘉陽礼文研究員、博士課程卒業生柯惟惟さん、本学留学生の郭宇生さんと荒見の7名により台湾文化に関する授業と現地紹介を計27時間実施し、続けて学生同士のディスカッション9時間を行い、これに学生たちの最終報告会4時間を組み合わせて台湾の特徴的な宗教文化、言語文化を学ぶプログラムとした。この午後の文化体験は学生参加者11名だった（以上、e-STRATプログラム部分）。このような午前と午後のプログラムを別にしたところ、意外なことに両方のプログラムに参加した学生はわずか3名だった。これは、こうしたオンラインプログラムとして実施する場合、現地に行って一定期間実施する海外短期研修とは異なり、必ずしも全日を費やすパッケージになっているのが良いわけではないことを表している。オンラインという新たなツールの活用が広がる中で、学生自身の目的や予定に合わせて自由に学びを選択できるよう、制度を設計する側もプログラムを開発していく必要があるのかもしれない。

広島大学公開講座 2021
「日本の中のエキゾチズム」について
～異国への憧憬・畏怖、そしてそのもたらすもの～

荒見泰史

2021年7月1日～8月5日、オンライン

- 第1回 荒見泰史「日本、宮島の中に見る異国情緒」
- 第2回 松山由布子「広島県における疫病の神の来訪ものがたり」
- 第3回 フェレイロ・ダマソ
「日本近現代文学をめぐるエキゾチックな身体表象：
タヒチの女性、スペイン闘牛士の男性」
- 第4回 風岡祐貴（北里大学）
「中島敦における南洋諸島とその描写に現れる外国語について：
『寂しい島』を一例に」
- 第5回 小宮山道夫「教育の革新」
- 第6回 本田義央「日本とインド」

広島大学公開講座2021 受講料無料

「日本の中のエキゾチズム」について
～異国への憧憬・畏怖、そしてそのもたらすもの～

インターネット（Zoom）から講義をお送りします
講義へのアクセス方法は申込後にご案内

■ 第1回7月1日（木）19：00～20：30
日本、宮島の中に見る異国情緒
講師：荒見 泰史（森戸国際高等教育学院 教授）

■ 第2回7月8日（木）19：00～20：30
広島県における疫病の神の来訪ものがたり
講師：松山 由布子（森戸国際高等教育学院 助教）

■ 第3回7月15日（木）
日本近現代文学をめぐるエキゾチックな身体表象：
タヒチの女性、スペイン闘牛士の男性
講師：FERREIRO POSSE DAMASO（森戸国際高等教育学院 助教）

■ 第4回7月22日（木）
中島敦における南洋諸島とその描写に現れる外国語について
「寂しい島」を一例に
講師：風岡 祐貴（北里大学 一般教育部 講師）

■ 第5回7月29日（木）
教育の革新
講師：小宮山 道夫（森戸国際高等教育学院 准教授）

■ 第6回8月5日（木）
日本とインド
講師：本田 義央（森戸国際高等教育学院 教授）

申込締め切り
6月24日



詳細・申込 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/news/63895>

お問い合わせ先 広島大学地域連携部門 TEL: 082-424-5871

研究・その他の活動（2021年4月～2022年3月）

1. 研究論文・著書・研究ノート

Tsunematsu, Naomi. “Agency, Autonomy, and Power of International Students in Interactions with Local Society in Japan through an Experiential Learning Project,” *COMPARE: A Journal of Comparative and International Education*, Published Online, January 5, 2022. DOI: 10.1080/03057925.2021.2017767

恒松直美「国際教育交流における“Third Culture” —留学生の日本留学目的と高校生の異文化間能力をつなぐ—」, 広島県立日彰館高等学校 『研究紀要』, 19号, 2022, pp. 31-38

松山由布子「奥三河花祭りと陰陽師—東栄町小林地区の花太夫を中心に—」梅田千尋編 『新陰陽道叢書 第3巻 近世』名著出版, 2021年5月, pp. 265-291

松山由布子「民俗社会の信仰と知識—奥三河宗教文献研究の現在」近本謙介編『ことば・ほとけ・図像の交響—法会・儀礼とアーカイヴ—』勉誠出版, 2022年3月, pp. 461-484

陳斐寧「『網代車』小考」『国文論叢 福長進先生退職記念号』57号, 神戸大学文学部, 2021年11月, pp. 80-90

2. 学会発表

Tsunematsu, Naomi, “Resilience of Exchange Students in the Study Abroad Program in Japan Under the COVID-19 Pandemic”, The Asian Conference on Education (ACE 2021), The International Academic Forum (IAFOR), Tokyo (Online) November 27, 2021

Tsunematsu, Naomi, “Narratives of International Students Facing the COVID-19 Pandemic: Continuation and Discontinuation of Study Abroad in Japan,” 第26回留学生教育学会年次大会（総会・研究大会）, 2021年8月21日, オンライン

陳斐寧「描かれた『網代車』—『枕草子』第三十段をめぐる—」, 2021年広島大学国語国文学会, 2021年7月10日, オンライン

3. 学術研究補助金

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員

恒松直美 広島大学 ダイバーシティ研究センター協力教員

恒松直美 多文化共生研究会メンバー

恒松直美 広島県立日彰館高等学校 異文化理解教育推進委員

松山由布子 国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学術学会 監事

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」“Internationalization of University and Intercultural Understanding” 講義（オンライン）, 宇部フロンティア大学附属香川高校, 広島大学出張講義, 2021年6月15日

恒松直美 広島大学公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」(英語・日本語, オンライン), 2021年6月16日・6月23日

恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」講義（オンライン）, 2021年度夏季広島大学日本語日本文化特別研修（台湾）, 2021年6月29日

恒松直美 「大学国際化・異文化間理解—国際的に活躍する研究者を目指して—（英語・日本語）」 "Internationalization of University and Intercultural Understanding : Becoming an International Researcher", 広島大学附属高等学校 FS(Frontier Science) 講演（オンライン）, 2021年10月18日

恒松直美 「日彰館高等学校と広島大学学生との国際教育交流」（オンライン）, 広島県立日彰館高等学校「グローバル人材育成プログラム 120 - 吉舎おもてなしプラン」, 2021年11月4日

- 恒松直美 「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナー開催（オンライン）、「グローバルインターンシップ」, 2021年12月24日
- 恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」講義（オンライン）, 2021年度冬季広島大学日本語日本文化特別研修（非漢字圏）, 2022年1月20日
- 恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)留学生インターンと呉市立倉橋中学校との国際教育交流」（オンライン）, 「グローバルインターンシップ」実習, 2022年1月21日
- 恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」講義（オンライン）, 2021年度冬季広島大学日本語日本文化特別研修（台湾）, 2022年2月1日
- 恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」講義（オンライン）, 2021年度冬季広島大学日本語日本文化特別研修（中国）, 2022年2月25日
- 恒松直美 「異文化間コミュニケーション」” Intercultural Communication” 授業（外部講師による授業「英語表現 I」）（オンライン）, 広島県立日彰館高等学校, 2022年3月16日
- 陳斐寧 「『源氏物語』と日本古典文化—「若紫巻」を読む」講義, 2021年度冬季広島大学日本語・日本文化特別研修（オンライン）、2022年2月11日
- 陳斐寧 「台湾の檳榔文化と日本の古典文学」講義, 2021年度広島大学春期 e-STARTプログラム（オンライン）, 2022年3月10日
- 陳斐寧 2021年度 EVRI 長春大学と広島大学共同教育プログラム授業, オンライン, 2022年3月から
- 松山由布子 「親鸞聖人と玉日姫」講演, 島根県邑南町安楽寺彼岸会, 2022年3月21日
- 松山由布子, フェレイロ・ダマソ, 永井敦, 畑有紀 第1回 広島大学国際交流を通じた日本文学セミナー「芥川龍之介「鼻」における日本文化の特質」（広島大学比較日本文化学プロジェクト研究センター主催）, 2022年3月5日～19日, オンライン